校　長　式　辞

（平成29年度 第33回卒業証書授与式）



校舎から望む有珠や羊蹄の山々の風情、噴火湾の波光のきらめきに、早春の訪れを感じる希望と喜びの象徴であるようなこの佳き日に、多くのご来賓並びに保護者の皆様にご臨席を賜り、北海道伊達緑丘高等学校第三十三回卒業証書授与式を挙行できますことは、卒業生、在校生はもとより、私たち教職員にとりましても大きな喜びです。

ご臨席を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げます。

ただいま、卒業証書を授与しました一六〇名の生徒の皆さん、卒業おめでとうございます。

皆さんは、入学以来のたゆまぬ努力が実を結び、ここにめでたく卒業の栄誉を得ました。

心からお祝い申し上げます。

また、今日まで、慈愛と教育的情熱を以て卒業生を導いてこられました、戸沼学年主任をはじめとする担任の先生方、教職員の方々の尽力に心から敬意を表します。

さて、希望と期待を胸に、四月から、新しい場所で、新しい人間関係の中で、それぞれの道に歩み出す卒業生の皆さんが、生き甲斐に満ちた幸せな人生を築いていくことを願い、次の話をもって餞（はなむけ）とします。

詩人、茨木のり子の『自分の感受性くらい』という詩の一節を紹介します。

「　ぱさぱさに乾いていく心を　ひとのせいにはするな　みずから水やりを怠っておいて
　駄目なことの一切を　時代のせいにはするな　わずかに光る尊厳の放棄
　自分の感受性ぐらい　自分で守れ　ばかものよ　」

作者自身が自らを叱っているようであり、また、読者にも、生き方や在り方に対する自覚を突き付けられているようでもあります。現代社会にあって、人間のもつ尊厳や矜持、一人ひとり異なる多様なものの考え方や感性は、翻弄され、ともすれば道標を失い彷徨っています。地球規模の深刻な環境問題。世界各地での様々な紛争や戦争。排他的で不寛容な価値観。ＡＩやＩＣＴの普及にどう折り合いをつけバランスを取っていくかが問われる時代にあって、せめて、他人や友人、近親者、暮しや時代のせいにせず、自分らしく生きていくことが大切だとのメッセージが、この詩には込められています。

このことは、私が校長として、折に触れ、皆さんに「想像力」を働かせることの大切さを説いてきたことにも関係します。卒業にあたり、今一度、このことについて申し上げたい。

一つ目は、他者に対しての想像力を巡らせることです。

相手の気持ちを自分のこととして置き換えて実感しようと努力すれば、いじめも戦争もなくなるでしょう。

二つ目は、自分を取り巻く情報に想像力を働かせることです。

ただ、受け取った情報を鵜呑みにせず、健全なる批判精神を以て思考するようになれば、ネット情報に踊らされることもなく、意図せずして誰かを傷つける事態も避けられます。

三つ目は、未来に対する想像力を磨くことです。自己の生き方や社会の未来に思いを巡らすなかで、時に、様々な事態を想定してみることです。心の準備があれば、挫折や失敗に遭遇したときも致命的にはならず気持ちを切り替えて前向きに生きていくことができるでしょう。

多様性の時代の気構えとして、心に留めていただきたい。

我々が生きる社会は、日々劇的に変化し、万人が認める正解のない世界です。確固とした道標もありません。そうした中、理不尽に憤り、失意に沈み、不安に苛まれる経験が必ずや訪れます。

しかし、卒業生の皆さん、ひるむことはありません。
いかなる事態においても対応できる柔軟性は、高校までの学生生活で身に付けています。
校訓のもと、培ってきた「創造性・礼節・挫けない逞しさ」、校歌に込められた「磨いた知性、郷土への敬愛の念、試練にひるまぬ強き大志」を胸に、しなやかに生きていくものと確信しています。
次に、在校生の皆さんにも一言申し上げます。
三年生の皆さんが、本日、めでたく卒業していく中、明日から本校を背負っていくのは、在校生の皆さんと我々教職員です。本校の主役は、在校生の皆さんとなります。
代々受け継がれてきた伝統を重んじるとともに、さらに、より高見を目指す緑丘高校の担い手になろうではありませんか。
ここで、改めて、本校のスクール・アイデンティティである、校訓の意味を確認したい。
『創造』は、未来を切り拓いていく主体性
『礼節』は、他を認め思いやり、自らをしる心
『剛健』は、困難に立ち向かう気力・体力
を表します。
自らの意思で、友人と切磋琢磨しながら、苦しいことや辛いことにもしっかりと向き合い前進していく人間を目指すことが、本校の学生としての本分と心得てください。我々教職員も、そのための支援は惜しみません。
「これからは、自分たちが『緑』を背負っていきます」という、強い気概のもと、卒業していく先輩達に、更なる発展を約束するとともに、これから入学してくる後輩達に誇れる緑丘高校となるよう、「チーム緑」で前進していきましょう。
ここで、保護者やご家族の皆様に、心からのお祝いとお礼を申し上げます。
お子様の卒業、誠におめでとうございます。
今日の日を一日千秋の思いで迎え、立派に成長されたまぶしい姿を目の当たりにし、きっと、万感の思いがこみ上げておられるものと、推察申し上げます。
お子様は、期待と不安を抱いて入学した日から、友と語らい、友情を育み、固い絆に思いを寄せ、時に笑い、涙し、悩みや困難を乗り越え、三年間の高等学校の課程を修了しました。
この間、陰日向なく支え、限りない愛情を注いで育てあげられましたことに、改めまして敬意を表し、お祝いを申し上げます。
今後も、この青年たちから心を離すことなく、家庭や地域と学校が手を携え、人生の先輩として見守っていきましょう。
また、三年間にわたりまして、本校の教育活動の推進のために、温かいご理解ご支援を賜り、誠にありがとうございました。
心から、感謝申し上げます。
終わりになりますが、卒業生の皆さんを育んだ、この稀府の風や土の温もりをいつまでも忘れないでいてください。そして、それぞれの道に自信と誇りをもって、いつまでも健康で力強く歩んで行かれることを祈念申し上げ、式辞といたします。
名残は尽きませんが、万感の思いを込めて、
「また、会いましょう。」

平成三十年三月一日

北海道伊達緑丘高等学校長
吉　瀬　献　策